

目次

概要

[どのように v7.0 およびそれ以降の ODBC ドライバのデバッグを有効にしますか。](#)

概要

この資料は v7.0 およびそれ以降の開放型データベース接続 (ODBC) ドライバ デバッグを有効にする新しい方法を説明します。これは v6.2 以来変更していました。この資料は Microsoft Windows クライアントに関係します。

v7.0 およびそれ以降の ODBC ドライバのデバッグを有効にする方法

v7.0 およびそれ以降では、標準的な .xml ファイルはデータソース名 (DSNs) (含んでいる composite62_x64.xml のような) のリスト廃棄されなく、もはや存在します。以前再呼び出して下さい、DSN エントリの .xml ファイルおよび一定 traceLevel='debug' が解決する必要があったこと編集するのが常でありました。

この DSN 情報は今 Windowsレジストリでしか保存されません。

v7.0 のための DSNs はレジストリに今ここにあります:

HKEY_LOCAL_MACHINE > ソフトウェア > ODBC > ODBC.INI

その DSN を見つけ、DSN に手動で「traceLevel」と指名される新しい文字列値を追加して下さい。

例

例 64 ビット DSN によって指名される 'local_70_serv' はここにあります。レッドでここに一周されて見る新しい文字列を入力して下さい。デバッグ モードで DSN を使用した後、この新しいトレースファイルが C:\CsOdbcDebug_<your DSN name>.log の下で現われるのを参照して下さい。

64 ビット Windows の 32ビット ドライバを使用する場合、DSN を代わりにここに探して下さい:

HKEY_LOCAL_MACHINE > ソフトウェア > **WOW6432Node** > ODBC > ODBC.INI

トラブルシューティングが完了する後レジストリからこのストリングを取除くことを忘れないようにして下さい。

